

2010 年度 博士論文

メタボリックシンドローム危険因子からみた

食行動変容の構造と病態改善の関係

天使大学大学院看護栄養学研究科

栄養管理学専攻博士後期課程

清水 真理

目次

第1章 緒言

1-1 疾病構造の変化と健康づくり運動	1
1-2 栄養・食生活と生活習慣の変化	2
1-3 新しい病態概念メタボリックシンドロームについて	3
1-4 特定健康診査(健診)・特定保健指導における指導・支援	4
1-5 メタボリックシンドローム対策における健康行動理論の有用性	5
図表	9
引用文献	11

第2章 天使健康栄養クリニックと本研究方法の概要

2-1 天使健康栄養クリニックの概要	13
2-1-1 対象者	
2-1-2 実施時期	
2-1-3 実施内容	
2-2 研究方法の概要	14
2-2-1 測定内容及び測定項目	
2-2-2 対象者の MetS リスク判定	
2-2-3 食行動変容段階の認知・行動レベルによる分類	
2-2-4 測定値の事前から事後に至る変化の表し方	
2-2-5 統計解析	
2-2-6 研究の限界と倫理的配慮	
引用文献	17

第3章 実証研究

3-1 実証研究 1

メタボリックシンドローム危険因子高低から見た食行動変容と病態改善の関係	19
3-1-1 目的	
3-1-2 方法	
3-1-3 結果	
3-1-4 考察	
3-1-5 まとめ	

図表	28
引用文献	37
3-2 実証研究 2	
メタボリックシンドローム病態改善に影響する食行動変容の構造分析	39
3-2-1 目的	
3-2-2 方法	
3-2-3 結果	
3-2-4 考察	
3-2-5 まとめ	
図表	45
引用文献	52
第3章 総合考察	54
引用文献	58
謝辞	60
資料	62